

<p>教育学・心理学</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>□ <b>インクルージョン概念の探究</b> ～インクルーシブな授業・学校・地域づくりに向けて～</p>
<p><b>key word</b></p>	<p><b>課題解決に役立つシーズの説明</b></p>
<p>■ インクルージョン ■ 特別支援教育 ■ 発達相談</p>	<p>学校では、さまざまな子どもたちが学んでいる。障害のある子どもや医療的ケアの必要な子ども、外国にルーツのある子ども、貧困家庭の子ども、虐待を受けている子ども、不登校の子どもなど…多様な教育的ニーズを持つ子どもたちが地域の学校で共に学び共に育つために、「地域」とは何か、「学校」や「授業」がどうあるべきかを問い直すことで、インクルーシブな教育の実現をめざしていきたい。</p> <p>◆ <b>インクルーシブな地域・学校・授業づくり—地域との共同研究—</b> 附属教育実践総合センター「地域教育支援をねらいとした共同研究」で次のような研究を行ってきた。</p>
	<p>① 滋賀県総合教育センターとの共同研究(トータルアドバイザーとして参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通常学級における特別支援教育の手法を取り入れた授業の進め方 — 実技等を伴う学習における「分かる」「できる」授業づくりを目指して— (2013 年度)</li> <li>・ 通常学級における書字のつまずきの理解と効果的な支援に関する研究 — 小学校低学年における指導の工夫— (2014 年度)</li> <li>・ 通常の学級における書字のつまずきの理解と効果的な支援に関する研究Ⅱ — 小学校低学年における指導の工夫Ⅱ— (2016 年度)</li> <li>・ 中学校特別支援学級の生徒の「共に学ぶ交流及び協働学習」の充実 — 生徒が持てる力を発揮するための自立活動を通して— (2024 年度)</li> </ul>
<p><b>窪田 知子</b> Tomoko Kubota</p>	<p>② 小・中学校等との共同研究(指導助言者として参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業のユニバーサルデザインプロジェクト—書くことを楽しむ児童の育成を目指して—(2014 年度)</li> <li>・ 特別支援教育に関する研究(2015 年度) (気になる子どもたちの実態把握を踏まえた個々の児童への支援と学級・授業のあり方について)</li> <li>・ 通級指導教室における効果的な指導・支援のあり方について(2017 年度)</li> <li>・ 中学校に設置された通級指導教室における指導・支援のあり方について(2019 年度)</li> <li>・ ことばの教室における読み書きチェックの活用について(2024 年度)</li> </ul>
<p>教育学部 教授</p>	<p>◆ <b>発達相談員としてのフィールドワーク—現場と研究と教員養成をつなぐ—</b> 発達相談員を務める中で、教育現場や家庭の“リアル”な姿にふれ、新たな研究課題と出会う。また、教員養成の課題を考えさせられる機会も多い。常に、現場(フィールド)と研究と教員養成とをつなぐ意識を持ちながら、子どもたちの教育がより豊かになるためにできることに地道に取り組んでいきたい。</p>
<p>【プロフィール】 &lt;専門分野&gt; ・障害児教育 ・特別支援教育</p> <p>&lt;略歴&gt; ・2002 年 京都大学教育学部 卒業</p> <p>・2007 年 京都大学大学院 教育学研究科教育科学専攻 博士後期課程 研究指導認定退学 ・修士(教育学)</p> <p>・2008 年 大阪千代田短期大学 幼児教育科 特任講師</p> <p>・2010 年 滋賀大学教育学部 講師</p> <p>・2014 年 滋賀大学教育学部准教授</p> <p>・2022 年 滋賀大学教育学部教授</p>	<p>◆ <b>教職大学院での教員養成—特別支援教育やインクルーシブ教育への感度を高める—</b> 教職大学院(ダイバーシティ教育力開発コース)では、学部での学びや現職経験を踏まえて、より広い視野と深い洞察力をもって、発達や心の健康を支えられる専門性を備えた教員の養成に努めています。</p> <p>(右写真は、所属コースを超えて、活発に意見を交流しながら学び合う教職大学院生の授業風景より)</p> 
<p><b>企業・自治体へのメッセージ</b></p>	<p>特別支援教育やインクルーシブ教育に関する研修・共同研究などを通して、教育現場の先生方と協働していきたいと考えています。</p>